

改定版ストップ結核ジャパン・アクションプラン
第 14 回フォローアップシート

平成 27 年 7 月 1 日 現在

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
(1)高蔓延国の結核対策の支援		
グローバルファンド(GF)や WHO を通じた貢献	<p>【外務省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高疾病負担国への適切な資金配分がなされるよう、理事会及び委員会を通じた協議に貢献。 ○日本人職員による貢献度を高めるため、国際機関人事センター及び各種メーリングリストを通じ、グローバルファンド(GF)事務局職員採用情報を紹介するとともに、GF 事務局に対し検討を積極的に働きかけ。 <p>【厚労省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○GF の次期枠組み策定やグラントプロポーザルに対する意見提出により、資金の適切な配分へ貢献。 ○平成 26 年度、WHO に対し、結核対策事業 1.3 億円の他、必須医療機器の整備に係る事業* 0.5 億円の一部を拠出。(*:結核等の重要な感染症や生活習慣病等の診断・治療のために、開発途上国において最低限備えるべき必須医療機器のリスト及びガイドラインの策定を支援するもの。) ○2014 年度、WHO 本部に対し、1)「世界結核戦略、MDG およびポストMDG 時代のモニタリングとインパクト評価」(ポスト 2015 年世界結核戦略の実施運営ガイドライン作成、2014 年世界結核報告書作成等、400,000 米ドル)、2)「HIV、結核、マラリアの横断的ポリシー策定、モニタリング評価等」(ポスト MDGs 開発の計画策定への参加促進等に関する会議開催・参加、資料作成、410,000 米ドル)を支援。 ○2014-2015 年度、WHO 西太平洋地域事務所の「地域におけるポスト 2015 結核戦略の実施」(地域ポリシーやガイドライン作成と配布、結核技術諮問委員会(TAG)会議開催、研修実施・参加等、272,500 米ドル)を支援 *ただし、2015 年度度分は未拠出。 	<p>【STBJ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○WHO 任意拠出金の結核への活用 ○WHO への人的貢献 <p><i>《確認事項》日本の任意拠出金の直近額、使用内容(厚労省)</i></p>

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
	<p>【JICA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アフガニスタンにおける結核対策技術協力プロジェクトに関連し、JICA アフガニスタン事務所が、同国における GF 第 10 ラウンド結核案件(2012.4～2015.3)の PR(Principal Recipient-資金受入機関)となった。(2015.4 以降は、PR を UNDP が担い、Sub-Recipient として BRAC が実務を担当している。) ○GF の疾病別委員会の結核分野委員会に JICA 国際協力専門員が委員として参加している。 <p>【予防会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高まん延国の有病率調査や診断精度強化等への技術支援(WHO) 	
<p>JICA, 結核専門家ネットワーク等を通じた、高蔓延国の結核対策への取組</p>	<p>【厚労省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○依頼に応じ、結核対策に関連した感染症対策の JICA 技術協力プロジェクトへ専門家を推薦、派遣。 ○結核に関連した感染症分野の課題別研修への研修員の受入れ(「MDG 達成及び結核征圧に向けた結核対策強化」(平成 25 年—27 年), 「MDG 達成を目指した結核菌検査マネージメント」(平成 25 年—27 年), 「感染症対策行政」(平成 25 年—27 年))。 <p>【JICA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アフガニスタンにおいて、技術協力「結核対策プロジェクト(フェーズ 2)」実施中(2014/11～2015/9)。本プロジェクトでは、イランにおいて、X 線診断装置を用いた診断技術向上のための研修を、2015 年 7 月下旬に実施予定である。同国では無償資金協力「感染症病院建設計画」にて、国家結核対策施設(カブール市)内での感染症病院の建設(2013 年 10 月完工)、及び無償資金協力(WHO 連携)「結核対策薬品機材整備計画」(2014/11～2015/05)を行った。 ○中国において実施中の「国家級公衆衛生政策計画管理プロジェクト」(2012/03～2016/03)の対象分野の一つに結核対策が含まれ 	<p>【JICA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結核高蔓延国における技術支援を通じ、結核専門家の人材育成を強化するため、本邦研修や第三国研修の充実を検討する方針。 <p>【予防会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本発の新抗結核薬・新診断技術、UHCに関連した感染症対策の視点からの技術協力プロジェクト等の取組

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
	<p>る。(エビデンスに基づく結核対策の有効性に対する検討により、結核対策が強化される。)</p> <p>○ケニアの技術協力個別案件「結核対策アドバイザー」を実施中。(2014/07～2016/07)。HIV 感染拡大により結核が増加している状況において、地方分権に適応した結核検査体制、精度管理、報告体制を整備・向上し、疾病負担を軽減することを目的とする。</p> <p>○カンボジアにて「結核対策プロジェクトフェーズ2フォローアップ協力」を実施中(2014/11～2016/03)。WHO による結核症例の定義および記録報告の枠組みの改定に伴い、「カンボジア国国家結核対策プロジェクト」(フェーズ1)で策定された研修モジュールや NTP ガイドライン等の改定のための支援を行っている。</p> <p>○課題別研修「MDGs 達成及び TB 制圧に向けた結核対策強化」(2015 年度)を実施中。</p> <p>○アフガニスタンにおいて実施中の技術協力「結核対策プロジェクト(フェーズ2)」の後続案件「結核対策プロジェクト(フェーズ3)」を検討中。</p> <p>{以下 26 年度(2014 年)の実施済み案件}</p> <p>○ ミャンマーにおいて「主要感染症対策プロジェクト・フェーズ2」を実施。(2012/03～2015/03)</p> <p>○ 第三国研修「ポルトガル語圏アフリカ諸国対象結核対策コース」を実施。(2010/10～2015/03)</p> <p>○ カンボジアにて「結核対策プロジェクトフェーズ2 フォローアップ協力」を実施。(2013/08～2014/03) 塗抹陰性結核と診断された患者の診断過程の調査、及び胸部 X 線検査診断能力向上のための支援を行った。</p> <p>○ エジプト・スエズ運河大学によるアフリカ向け第三国研修「結核エイズマネジメント能力強化プロジェクト・フェーズ2」(2011/06～2014/03)を実施。</p> <p>○ エジプト・保健人口省国家結核対策プログラムによる中東向け第</p>	

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
	<p>三国研修「結核対策」(2011/05～2014/03)を実施。</p> <p>【予防会】</p> <p>○JICA技術協カプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジア国「国家結核対策プロジェクト・フェーズ 1 フォローアップ協力」(平成 26 年 11 月-28 年 3 月) ・ケニア国「結核対策アドバイザー業務」(平成 26 年 7 月-28 年 7 月) <p>○JICA本邦研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「MDGs 達成及び結核制圧に向けた結核対策強化コース」(平成 25 -27 年) ・「MDGs 達成に向けた結核菌検査マネージメントコース」(平成 25 -27 年) <p>○結核専門家ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修修了生延べ 2,280 人/97 か国がデータベース登録。ネットワーク強化のためのニュースレター(11 月発行予定)準備中 <p>○国際移動セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマー(8 月開催予定)準備中(厚労省 ODA 結核研究所補助金) 	
(2)UHC の達成への貢献		
<p>結核対策との相乗効果への配慮を踏まえ、UHC 推進に向けた国際協力や技術支援の可能性を検討</p>	<p>【外務省】</p> <p>○我が国は、2013 年 5 月国際保健外交戦略を策定し、国際保健を日本外交の重要課題と位置づけ、UHCの推進・主流化を掲げた。国連総会やTIVADで安倍総理が UHC 推進を表明し、ポスト 2015 年開発アジェンダ交渉など国連交渉の場でも、我が国は UHC 推進を主導。SDGs 報告書の保健ターゲットにUHCが明記され、国連事務総長統合報告書においても、ポスト 2015 年開発アジェンダの重要な要素として UHC が明記された。</p> <p>○二国間援助の効果的な実施(援助手段の改善と総動員)</p> <p>UHC推進の具体的案件としては、以下が挙げられる:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケニア: UHC に向けた主要政策アクションを支援する「UHC 達成に向けた保健セクター政策借款」を表明(平成 27 年 3 月)。「保健財政/ 	<p>【JICA】</p> <p>○研修を含めた技術協力等を通じ、UHC 推進に資する結核対策支援を今後も行う方針。</p>

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
	<p>円借款形成」専門家によるケニア保健省 UHC ロードマップ作成支援を実施中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア: 医療保障を中心とする社会保障制度の強化を支援する技術協力(平成 26 年 5 月)。 ・ミャンマー: 包括的な保健システムの強化を支援する技術協力(平成 26 年 10 月)。 <p>○グローバルな取組との連携(戦略的パートナーシップの構築)として, 日世銀共同UHCフラッグシップ研修, 日世銀共同研究プログラム, 日 UNDP 基金を用いた, 各国保健省担当官を対象とした保健財政研修(チュニジア, 南アフリカで実施), ASEAN+3 UHCネットワークの設立等に取り組んだ。</p> <p>【厚労省】</p> <p>○依頼に応じ, 国立保健医療科学院等において UHC に関する研修を実施(「アジア地域におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成のための社会保険制度強化」(平成 25 年-27 年)等)。</p> <p>【JICA】</p> <p>○課題別研修「結核世界戦略に基づく結核対策強化」(2016 年度)に, UHC 推進に向けた取り組みの講義を含める予定。</p>	
(3)技術革新		
<p>新規結核ワクチン, MDR 対応新抗結核薬, 新診断技術等の研究開発に関する検討と, 結核研究の推進(産業革新気候や GHIT ファンドとの連携も視野に入れる)</p>	<p>【JICA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タイにおいて, 「効果的な結核症対策のためのヒトと病原菌のゲノム情報の統合的活用プロジェクト」(地球規模課題対応国際科学技術協力-SATREPS)を実施中。(2015/04~2019/03) ○ザンビアで「結核及びトリパノソーマ症の診断法と治療薬開発プロジェクト」(SATREPS)を実施。(2009/11~2013/11) ○「MDGs 達成を目指した結核菌検査マネージメント」(2015 年度)において, LAMP 法等の日本の技術に関する内容を講義に含めている。 	<p>【JICA】</p> <p>○SATREPS, 研修事業を通じ, 効果的な結核対策に必要な研究活動を今後も支援する方針。</p> <p>【STBJ】</p> <p>○感染症コンソーシアムとの連携</p> <p>短期目標として,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デラマニド普及のための導入試験の結核高負担国での展開 ・LAMP 法, ニプロの薬剤耐性キットを使った臨床研究

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
	<p>○課題別研修「結核世界戦略に基づく結核検査マネジメント」(2016年度)においても, 同様の内容を含める方向性で検討予定。</p> <p>【予防会】</p> <p>○感染症コンソーシアムを通じた取り組み</p> <p>○諸研究機構を通じた研究開発:新抗結核薬(GHIT), 新レジメン開発(厚労省), ヒトゲノム情報を用いた治療法(SATREPS), 気道分泌液等を用いた新診断技術の開発(企業共同, AMED申請予定)</p>	<p>資金調達として,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICAの支援プログラムへの打診 ・外務省の無償提供援助の検討 ・GHITからの研究支援(適用拡大を目的)の検討 ・GFからの資金援助を得るためのスキーム検討 ・メディカル・エクセレンス・ジャパンの支援検討 ・AMEDからの研究支援の検討 ・幅広い海外NGOに対する資金提供打診 ・5年間13兆円のアジア支援スキームにデラマニド, LAMP, 薬剤耐性遺伝子診断キット開発パッケージを盛り込むためへの働きかけ。
<p>日本医療研究開発機構等を通じた必要な予算の確保</p>		
<p>有望な革新的技術の早期実用化に向けた環境整備</p>		<p>【STBJ】</p> <p>○感染症コンソーシアムとの連携</p> <p>中長期目標として,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結核対策・研究国際基金の創設 ・結核対策国際コンソーシアム設置 <p>(臨床研究を進めるアジア諸国を加えたコンソーシアムへの発展の可能性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多剤耐性結核研究・治験センターの設置 ・多剤耐性結核の研究・治験のための新たな組織・体制の必要性(施設整備, 人材) ・日本国内と臨床研究を進めるアジア諸国において, 研究・治験センターが必要
<p>(4)日本の技術のグローバルな展開</p>		
<p>日本発の結核関連技術の, 世界展開に向けた取組に対する支援</p>	<p>【外務省】</p> <p>○結核関連技術を有する企業からの海外展開に係る個別の相談に応じ, JICA等の活用し得るスキームや各国・期間の取組等の情報提供・助言を実施。</p>	<p>【STBJ】</p> <p>○感染症コンソーシアムとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニプロの薬剤耐性遺伝子検査のWHO推奨獲得への支援 ・中長期的にみた, 栄研, ニプロのキットを合わせた結核と多剤耐性

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
	<p>【予防会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本の感染症対策・制度(対策コース)および結核診断検査技術(ラボコース)研修」(9月開催)準備中(NCGM 医療技術等国際展開推進事業) ○LAMP法の中国瀋陽市胸科院における試用への技術支援(結核予防会日中友好事業の一環) <p>【STBJ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄研のLAMP法のWHO推奨獲得への支援(3か月後再審査) 	<p>結核の診断システムの最適化, パッケージの検討とそのグローバル展開</p>
(5)創造的国際的官民連携の推進		
<p>国際的官民連携の一例である, GHIT ファンドに対する支援と協力</p>	<p>【外務省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外務省及び厚労省からの資金協力の他, 評議員・理事としてGHITの運営に協力。GHITがこれまでに採択した39件のプロジェクトのうち7件が結核関係, 4億2千万円の助成を実施。 <p>【厚労省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○評議員及び理事を派遣。平成25年, 26年度補正予算において, 開発途上国向け医薬品研究開発支援事業として合計35億円を拠出し, GHITにおける研究開発等を支援。 	
(6)結核にかかわるNGOの役割		
<p>積極的な普及広報活動の展開と, 結核対策事業の実施</p>	<p>【JICA】</p> <ul style="list-style-type: none"> JICA草の根技術協力事業 ○フィリピン国「マニラ首都圏都市貧困地区における結核感染・発病予防モデルプロジェクト」(2011/06~2014/06)を実施。 ○ザンビア国「住民参加による結核診断・治療支援モデル拡大プロジェクト」(2012/04~2015/04)を実施。 <p>【予防会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草の根レベルの技術支援 	<p>【JICA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティーレベルで効果的結核対策を行うNGOへの支援, 連携を今後も検討する方針。 <p>【STBJ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際シンポジウム開催への支援

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
	<p>・カンボジア国「プレイヴェン州ピアレン医療圏結核診断体制強化プロジェクト(平成26年3月-27年3月)」(外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業)</p> <p>・他, ザンビア国「チョンゲ郡におけるコミュニティ参加による結核及びHIV対策強化プロジェクト」(外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業) 審査中。フィリピン, ミャンマーにおける案件準備中。</p> <p>【STBJ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○記者発表, ニュースリリースなど, マスメディアを通じた活動 ○ストップ結核ボランティア大使(JOY)を通じた活動 ○学会などを通じた医療従事者への提言活動 ○糖尿病協会などと協力した活動 ○国会議員など, 意思決定者へ対しての働きかけ ○HPなどでの情報提供 ○ポスター, チラシなどを活用した結核の正しい知識の普及啓発 ○イベントなどを通じた普及広報活動 ○日本の新技術の取り組みや成果の広報 ○国際シンポジウムの開催(予定) 	
NGO の活動に対する支援	<p>【外務省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本 NGO 連携無償資金協力による結核事業支援 <p>結核予防会: カンボジア国「プレイヴェン州ピアレン医療圏結核診断体制強化プロジェクト」(平成26年3月-28年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度 NGO 事業補助金による結核事業支援 <p>AMDA 社会開発機構: ザンビア国「プロジェクト調査事業(ザンビア国ルサカ市における小児を中心とした結核対策事業事後評価)」(平成27年6月-7月(申請予定))</p>	
(7) 日本国内の結核対策		
「結核に関する特定感染症予防指針」を見直し, 内外に 2020 年までに低	<p>【厚労省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「結核に関する特定感染症予防指針」の見直しの検討を行う。 ○結核対策関連予算として, 平成 27 年度予算において約 50 億円を 	

活動項目	実施状況	自由記載(今後の展望, 取組の可能性等)
蔓延国となることを目指す旨宣言, 必要な予算と人員の確保に努め, 徹底した対策を実施	確保。(対前年度比約1億5千万円増)	
低蔓延化の推進活動, 普及啓発の支援	<p>【厚労省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主に結核予防週間に政府広報等を行う等, 普及啓発を行う。 <p>【予防会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「結核に関する特定感染症予防指針」見直しに向けた技術的提言 ○多剤耐性結核研究・治験センターの設立に向けた準備 ○普及啓発: ACジャパン支援キャンペーン, 機関誌「複十字」(年6回), 結核予防週間/全国一斉複十字シール運動キャンペーン(9月)準備中 	<p>【STBJ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低蔓延化目標の周知努力, 情報発信(厚労省)
(8)アクションプランの推進		
各者の立場を踏まえた, 新たな主体との連携		<p>【STBJ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日経感染症フォーラムとの連携